

THANKS

(VOL. 161)

BUSINESS NEWS LETTER

発行日：平成22年11月1日
発行者：有限会社サクスマインドコンサルティング
連絡先：〒359-1118
埼玉県所沢市けやき台 1-41-11
TEL:04-2922-1417
E-MAIL：info@thanksmind.co.jp
<http://www.thanksmind.co.jp>

特集

「ことわざから学ぶ仕事における心構え (その7)」

本誌では今、「ことわざから学ぶ仕事における心構え」を特集しています。
私自身の経験や、コンサルティングを通して見たことを踏まえて、「こんなことが大事では…」と思われることをまとめたものです。
「カルタ風」に、「あ行」から進めています。
今回は、「と」のことわざから続けます。

と：「泥棒を見て縄を綯う (どろぼうをみて、なわをなう)」

<意味>

自泥棒を見かけてから縄を作る。
事が起ってからあわてて用意をするたとえ。
略して、「泥縄」、また「盗人を見て縄を綯う」「泥棒を捕らえて縄を綯う」とも言う。

準備の大切さについて説いたことわざです。
実際に事が起ってから、あわてて用意をしても、もはや手遅れ。
せっかくのチャンスを逃してしまうかも知れません。
しっかりと「準備」をしておくことが必要です。

ただし、ちょっとこことで、注意しておきたいのは「準備」の仕方です。
あまりにも「もしも…」を意識し過ぎると、「『もしかしたら』の過敏症」になってしまいます。
ちなみに、「『もしかしたら』の過敏症」とは、「普段は必要ないけれど、もしかしたら今回必要になるかもしれないからやっておこう。」という気持ちが働きすぎることを。
例えば、会議で報告する際に、ある事項に対して上司から突っ込まれるかもしれないから、その場ですぐに明確な説明ができるように裏づけ資料を作っておく、ようなものです。
確かに、突っ込まれる可能性はあるかも知れませんが、もし突っ込まれなかったとしたら？
それは、単なる無駄な仕事と言えるでしょう。

もし、突っ込まれたとしても、口頭で「××です。」と説明すればそれで済むし、それでも不足ならば、「後で資料を持ってゆきます」で十分でしょう。
要するに、「もしかしたら必要」程度のもので、「必要になったとしても緊急性が少ない」ものは、本当に必要になった時に初めてやれば良いのです。

せっかく準備をしても、その中で、実際に使われるのは、ほんの数%。
残りは、「もしも」のためだけに準備しておく…
よく、役所とか、古い体質の会社で見られることですが、そうなると、いくら時間があっても足りません。

それでは、具体的にどうしたら良いのでしょうか？
「準備」で大事なことは、「予測」です。
きっと、「××のことが起きるだろう。 だったら△△をしっかりと準備しておこう！」
そういう姿勢が大切なのです。

ちなみに、私のテニススクールのコーチは、30代の女性です。
パワーだったら負けないのですが、全く歯が立ちません。
何が違うのか？
思い通りボールを打つという基本技術もちろんですが、もっと大きいのは「予測」の差です。
「きっと、この辺に返ってくるだろう…」
相手のレベルや、自分のボールのスピード、コースによって、相手の返球を「読む」のです。
だから、動きがスムーズであり、いつも同じ体勢で打つことができます。
一方、私は、相手が打ったボールを一生懸命追いかけるだけ。
周りから見ると、「バタバタ」しています。
無理な体勢で打つので、当然、ボールも狙ったところには飛びません。
これでは、勝てる訳ありません。

「予測」と「準備」の基本的基本的考え方 ～予測の選別方法

せっかくなので、ここで、「予測」と「準備」について、基本的な考え方を整理しておきたいと思います。

- ・相手のピッチャーがどこに投げってくるのか？
- ・お客様がどのように反応するのか？
- ・市場がどのように変化するのか？

「意識」をしているかどうかは別として、皆さんも、いろいろな場面で「予測」をしていることでしょう。
「予測」を上手にできれば、十分な準備が可能になります。
何か事が起っても、あわてずに対応できますし、事が起る前に先手を打つことも可能です。

しかし…
全ての「予測」に対して、同じように「準備」しておく必要があるのでしょうか？
答えは「NO!」。
「備えあれば憂い無し」と言いますが、備えるためには、時間やお金がかかります。
全ての予測に備えていたら、いくら時間やお金があっても足りません。
やはり、「予測」の中でも、しっかりと準備しておくべきものと、そうでないものを「選別」することが必要なのです。

「予測を評価する？ あまりピンと来ないな～」
そんな声が聞こえてきそうですね・
それでは、どうやって「予測」を評価し、選別したら良いかを考えてみましょう。

「予測」は、以下の2つの角度から評価することが基本です。

①発生の可能性

「予測」の中には、「絶対に起こる！」と考えられるものもあれば、「もしかしたら起こる！」というものもあります。

同じ「予測」でも、発生の確率は様々なのです。

そのような、「発生の可能性」を評価し、「絶対に起こる」と考えられるものから、しっかりと準備をしておくことが大切です。

②発生した時のインパクト（影響度）

予測した事態が起った場合に、「どのくらいの影響があるのか」ということも重要な視点です。

発生したら、「大変なことになる」ものもあるし、「多少の影響はあるけれど、それほどでもない」というものもあります。

同じ予測でも「インパクト（影響度）」は違うのです。

影響が小さなものであれば、「起った時になんとかなる」かも知れませんが、大きいものについては、やはり事前の準備が必要になります。

<天気予報で考えてみよう！>

概念的な説明でしたので、分かりにくいかも知れませんね。

ここで「天気予報と準備」を例にとって、更に詳しく見ていきましょう。

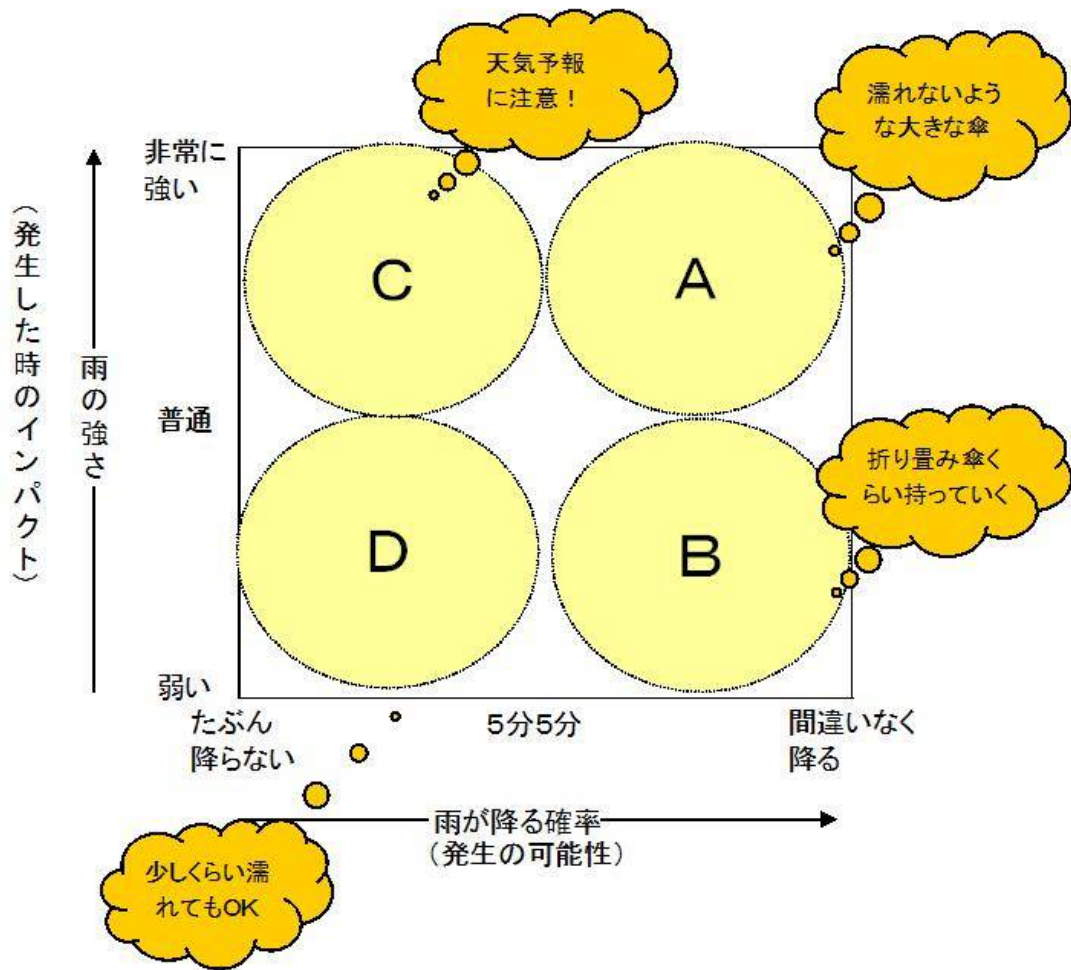
天気予報を、ひとつの「予測」と考えると、「発生の可能性」と「発生した時のインパクト」は次のように考えられます。

- ①発生の可能性： 雨の降る確率
…どのくらいの可能性で雨が降るのか？
- ②発生した時のインパクト： 雨の強さ
…どのくらいの強い雨が降るのか？

次ページの表を参照してください。

上記の①と②をマトリックスにしたものです。

「雨の降る確率」と「雨の強さ」で、A, B, C, Dの4つのゾーンに区分しました。それぞれのゾーンで、きっと準備が違うでしょう。



Aは、強い雨が強い確率で降るゾーン
 今、雨が降っていないなくても、「大きな傘」を持参して出かけることが得策です。

Bは、高い確率で雨は降るものの、雨は強くないゾーン
 大きな傘は邪魔になりますから、「折り畳み傘」くらいが丁度良いでしょう。

Cは、雨が降る確率は低いものの、もし降るとしたら強い雨になるゾーン
 面倒ならば、特に傘を持って行く必要はありませんが、天気予報に注意して、もし「降りそう」だったら早めに帰宅する方が良いです。

Dは、雨が降る確率は低いし、降っても弱い雨のゾーン
 「少しくらい濡れても平気」という人は、手ぶらで出かけて結構です。

まあ、上記の「準備の方法」は「例」であり、人によって違うでしょうが、「予測」の内容次第で、準備の内容が変わることは理解してもらえましたか？

仕事でも同じことですよ。

何でもかんでも、同じように「準備」する必要はありません。

「発生の可能性」と「発生した時のインパクト」を考慮して、「どの程度の準備が必要なのか」を判断することが大事です。

<次回につづく>